



本県の少子化の現状や県の取り組みについて説明を受けた新聞部員。17日午後、宮崎市・宮崎大宮高

## 宮崎大宮新聞部に記者委嘱

高校生記者が本県の結婚や少子化対策の現状を取材し、宮崎日日新聞の紙面で情報発信する「学生プレスプロジェクト」で17日、宮崎市の宮崎大宮高新聞部員（8人）への記者委嘱式があった。同プロジェクトには本年度、都城泉ヶ丘、都城西の2高校新聞部も参加予定。結婚や子育て支援などの現状を取材・情報発信する機会を通して、自らのライフデザインを考えるきっかけにもつながる。

委嘱式では、宮崎日日新聞社読者室の黒木友貴・読者企画委員が部員一人一人に委嘱状と名刺を手渡した。県ごとも政策

## 都城泉ヶ丘、都城西も参加予定

課の上中園彩智香主査が、県内の合計特殊出生率が2023年に1・49まで低下したことや、15年に県が「みやぎき結婚サポートセンター」を開設して以来、148組の結婚が成立したことを説明した。

その後、記者養成講座もあり、黒木読者企画委員が取材の仕方や写真の撮り方を解説した。

宮崎大宮高新聞部の穂積彩華部長（16）は2年一校内での活動がほとんどなので、普段関わらない方に取材する貴重な経験を大事にして、これからの新聞部の活動に生かしていけたら」と話していた。